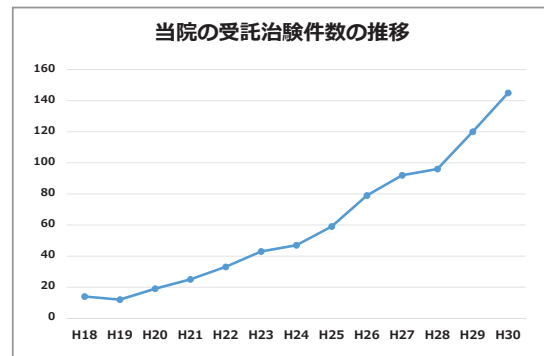


がんセンターたより

【治験管理室は、HOPE(新規治療開発支援センター)に名称変更しました】

新規治療開発支援センター長 齊藤 春洋

「新規治療センター」あるいは「HOPE」と聞いて、皆さんはすぐにわかっていただけますか？今年の6月から、「治験管理室」は、「新規治療開発支援センター」に名称が変更になりました。治験だけではなく臨床研究や医師主導治験等を幅広く支援している実情に合わせて名称を変更しました。将来的に早期開発試験にも関わっていく、という構想も含まれています。略称は、「新規治療センター」あるいは「KCC-HOPE」です。これは、**KCC** (Kanagawa Cancer Center) **H**ospital **S**upp**O**rt for the **D**evel**O**ment of **N**ew **T**her**A**p**I**esの略で、患者さんに新しい治療を通して希望を届けるという願いが込められています。気軽に「HOPE」と呼んでください。



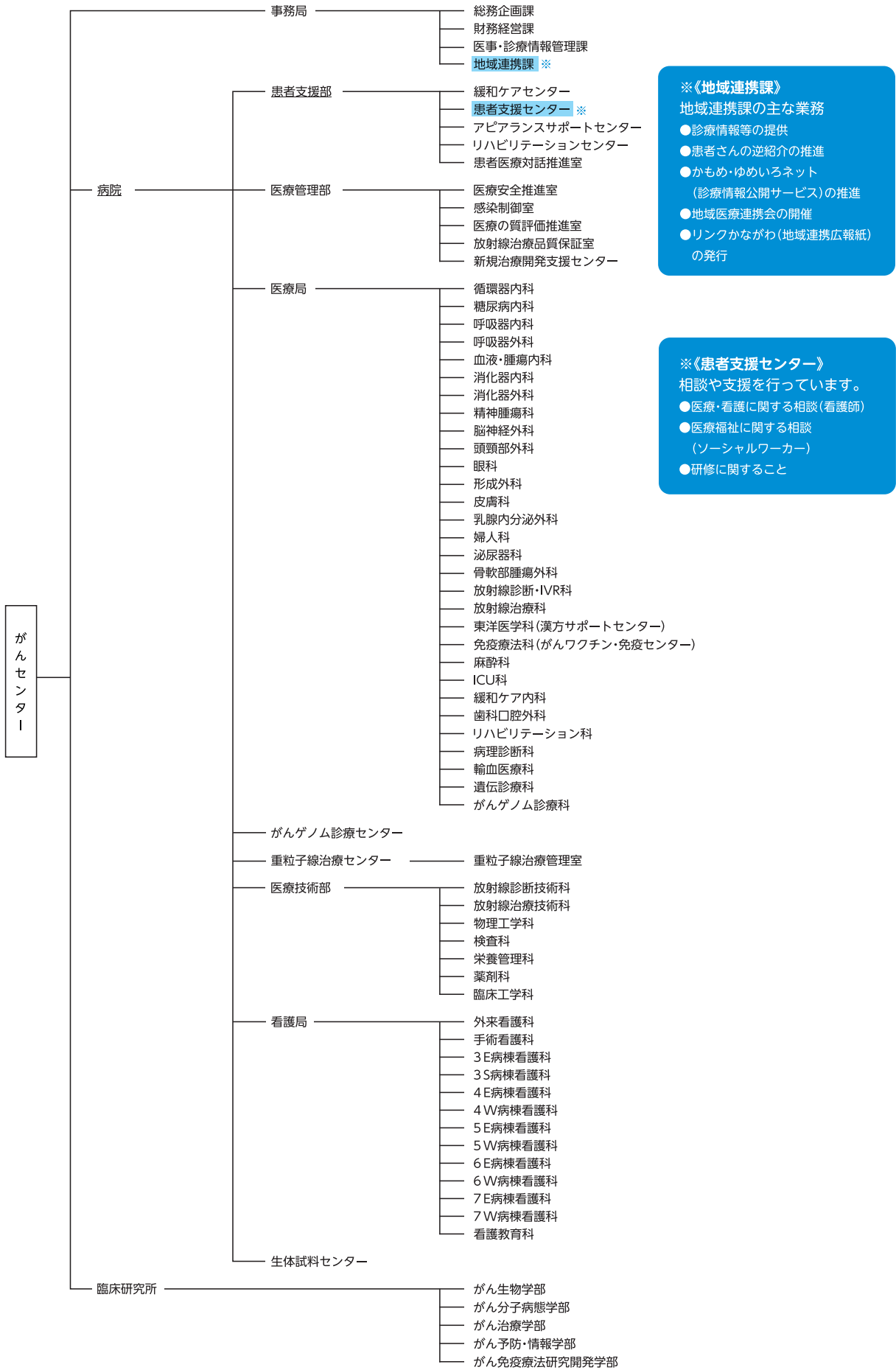
HOPEの前身の治験管理室で、小生が副室長として関わるようになったのはH19年からです。その当時は、CRCと事務2人そして室長から構成される本当に小さな小さな室でした。歴代の室長には、野田先生(元呼吸器)、円谷先生(元消外)、大川病院長、久保田先生(頭頸)、森永先生(肝外)、そして森本副院長が名前を連ねています。

HOPEが発展するターニングポイントになったのは、院外CRC(SMO)の導入と新病院への移転です。徐々に治験数が増え、院内CRCだけでは対応が難しくなりSMOの導入を開始したのがH22年頃でした。SMOを導入すべきか、採用したSMOをどのように教育していくか、などを旧病院の図書室で当時の大川室長を囲んで議論をしたのが懐かしく思い出されます。SMO導入後、そしてH25年に新病院に移転し治験管理室が拡大したのを契機に、治験数がうなぎのぼりに増えていきました。現在、稼働治験数は年間145件(H30)になります。また、室長・上野副室長・中山マネージャーをはじめ、院内CRC10名、DM(データマネージャー)7名、事務11名、SMO32名の総勢70名以上の大所帯になりました。治験や臨床試験は、新たな薬剤や治療法などを検証し、がん患者さんが、その恩恵を受ける可能性を広げる事を目的として行われています。治験は、患者さん・病院のスタッフに支えられて成り立っています。治験は、実地医療と並んでがんセンターが提供すべき治療であり使命です。是非、HOPEや治験についてご理解いただき、引き続き病院全体で盛り上げていただければ幸いです。

HOPEが発展するターニングポイントになったのは、院外CRC(SMO)の導入と新病院への移転です。徐々に治験数が増え、院内CRCだけでは対応が難しくなりSMOの導入を開始したのがH22年頃でした。SMOを導入すべきか、採用したSMOをどのように教育していくか、などを旧病院の図書室で当時の大川室長を囲んで議論をしたのが懐かしく思い出されます。SMO導入後、そしてH25年に新病院に移転し治験管理室が拡大したのを契機に、治験数がうなぎのぼりに増えていきました。現在、稼働治験数は年間145件(H30)になります。また、室長・上野副室長・中山マネージャーをはじめ、院内CRC10名、DM(データマネージャー)7名、事務11名、SMO32名の総勢70名以上の大所帯になりました。治験や臨床試験は、新たな薬剤や治療法などを検証し、がん患者さんが、その恩恵を受ける可能性を広げる事を目的として行われています。治験は、患者さん・病院のスタッフに支えられて成り立っています。治験は、実地医療と並んでがんセンターが提供すべき治療であり使命です。是非、HOPEや治験についてご理解いただき、引き続き病院全体で盛り上げていただければ幸いです。



【神奈川県立がんセンター組織図】



【学会報告】

International Continence Society (国際禁制学会)

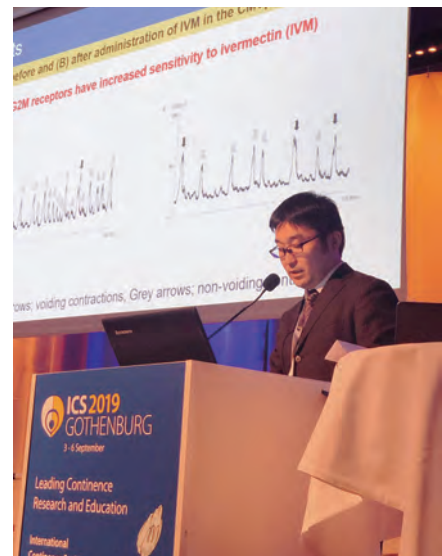
泌尿器科 鈴木 孝尚

2019年9月3日～6日にSweden・Gothenburgで開催されました第49回国際禁制学会 (International Continence Society:ICS) に参加・演題発表してまいりました。本学会では排尿に関する基礎・臨床の最新の研究成果が発表されており、各々の分野での最新の知見を得ることができました。

当院での診療に関連する演題としては、ロボット支援下前立腺全摘除術 (RARP) の術後合併症の一つである腹圧性尿失禁に関する臨床研究 (予測因子の探索、術後尿禁制を保つための手術の工夫 など) が散見されました。RARPが普及してきても術後尿失禁に関する臨床研究はトピックの一つであり、これらの発表を参考に、今後の診療に生かしていきたいと改めて感じました。

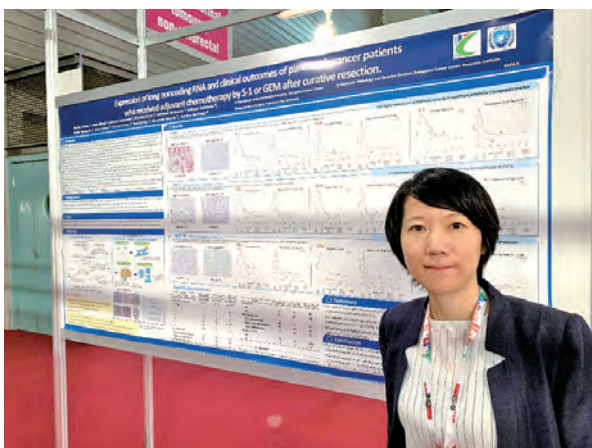
Gothenburg (Sweden第二の都市) は、のどかで中世の雰囲気を残す街でしたが、日常生活はほぼ完全なカード社会。海外出張/旅行で現地通貨を一切使用しない (両替もしなかった) という初体験もしました。

末筆ながら、このような貴重な機会をいただきましたことに感謝申し上げます。



European Society for Medical Oncology (欧州臨床腫瘍学会)

消化器外科 (肝胆膵) 神谷 真梨子



2019年9月27日～10月1日にスペイン、バルセロナで開催されたESMO Congress 2019 (欧州臨床腫瘍学会) に参加させていただいたのでご報告いたします。ESMOは1975年に創立された欧州の癌治療の専門家を中心とした学会で、年に一度開かれる学術集会には世界100か国以上から臨床医や研究者が集まります。

今回私は、がんセンターにレジデントとしての在籍時から、当科森永部長及び、臨床研究所の宮城先生のご指導の下進めてきた、膵癌におけるlong noncoding RNAの発現と術後補助化学療法の感受性についての研究の成果を、「Expression of long noncoding RNA and clinical outcomes of pancreatic cancer patients who received adjuvant chemotherapy by S-1 or GEM after curative resection」というタイトルで発表を行うことが出来ました。いくつか質問を頂き、有意義な議論が出来た一方で、やはり英語の読み書きのみでなく、会話力の必要性を痛感しました。また、会場では消化器関連の免疫チェックポイント阻害剤やゲノム治療などに関する発表を聞き、最新の知見に触れることが出来ました。今回このような貴重な機会を与えてくださった方々に深く感謝申し上げます。

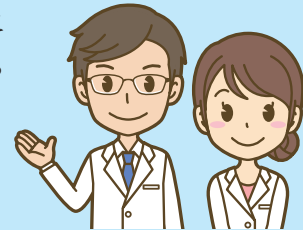
【リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019横浜】

9月7、8日、みなとみらい臨港パークで開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019横浜」に今年も参加しました。台風が接近していたため、閉会式が早まりましたが、有意義な時間を過ごすことができました。「がん患者は24時間がん向き合っている」をメッセージに私たちは、プラカードを持ちながら歩き、血圧測定、がん相談を行いました。皆様にいただいた募金はがん患者さんや家族の為に無料電話相談サポート、新しい治療法、新薬開発等への研究助成などに役立てられています。ルミナリエバックの作成、募金のご協力ありがとうございました。また、来年もよろしく願い申し上げます。（患者支援センター）



【緩和ケア週間】

10月7日～10月11日、緩和ケアの普及啓発を目的に「緩和ケア週間」を開催いたしました。緩和ケアをより知っていただきたいという気持ちを込めて、緩和ケア週間の横断幕のぼり、緩和ケアのシンボルである、オレンジバルーンの装飾を行いました。患者さんやご家族のみなさまから、「ポップな装飾でかわいい」や、病院職員が手書きした患者さんへの応援メッセージには、「とてもあたたかくうれしく心強い気持ちになりました」とのお声をいただきました。また、緩和ケア相談などの各種相談会やお料理レシピの提供、ハンドマッサージも好評で、多くの患者さんやご家族に来ていただきました。（緩和ケアセンター）



【神奈川県がん診療連携協議会 がん薬物療法部会の取り組み】

神奈川県がん診療連携協議会 がん薬物療法部会部会長
神奈川県立がんセンター 血液・腫瘍内科部長 酒井リカ

神奈川県がん診療連携協議会では、県内全域での質の高いがん医療の提供を目指して医療機関の連携強化を図るために、都道府県がん診療連携拠点病院である当院が事務局となり、地域がん診療連携拠点病院17施設、神奈川県がん診療連携指定病院12施設の全30施設が参加して、がん診療にかかわる様々な取り組みを行っています。協議会内には「相談支援部会」、「院内がん登録部会」、「緩和ケア部会」、「地域連携クリティカルパス部会」に加え、2017年度より「がん薬物療法部会」が新たに設置され、活動を開始しました。

「がん薬物療法部会」には、各施設のがん薬物療法にかかわる医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどの多職種がチームとして参加しています。現在、当部会ではおもに、相互訪問ピアレビューに取り組んでいます。2018年度は30施設の中でも外来化学療法件数が多い、当院を含む6施設間でピアレビューを開催しました。ピアレビューでは、受け手施設は自施設のがん薬物療法の現状と課題を再評価する契機となり、さらに、外部からの意見や評価を受けて次の改善策に取り組むヒントをえました。レビューアーとしての訪問は、がん薬物療法にかかわる他施設の様々な取り組みを知る貴重な経験となり、自施設の状況を振り返るよい機会にもなっています。また、ピアレビューには多職種で参加するので、活動を通じ、がん薬物療法チームの結束も高まりました。

がん薬物療法にかかわるピアレビューは都道府県がん診療協議会の中でも、神奈川県が先駆的に取り組んだことで、大変注目されています。私たちの取り組みは、「平成30年度 都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラム」や、「令和元年度愛知県がん診療連携協議会第1回PDCAサイクル推進検討部会」、「平成30年度 都道府県指導者養成研修(がん化学療法研修企画)」等で、他県にも紹介させていただき、高評価をいただいています。

ピアレビューにより県内医療機関のがん薬物療法にかかわる連携強化がさらに進むことを期待し、2019年度以降、全ての施設が受け手施設とレビューアーを経験することを目標に、当部会の活動を今後も継続してまいります。



ピアレビュー当日の風景

【病院ボランティア会「ランパス」のご紹介】

ボランティアとしてのコンセプトは「ご家族の代わりに手足として活動する」ことです。心は目に見えないものだけれど「声をかけてもらえるとうれしい、一緒にいてくれる人がいると心強い」という方々に寄り添い、その時を共有し、積み重ねていくことが大事だと思っています。そのような私たちの思いを受け入れて下さっている病院に感謝しております。

(ボランティア会ランパス)



クリスマスコンサートの様子

◆◆◆◆◆ 活動時間 ◆◆◆◆◆

受付案内：月曜～金曜 9時～12時

移動図書：毎週木曜日 11時～14時

●病棟ボランティア(7病棟)

毎週木曜日 9時30分～12時

●緩和ケア病棟ボランティア

月曜～金曜 13時～16時

●音楽ボランティア

毎週木曜日 12時～15時



当センターでは、毎週木曜日、2階ラウンジにて病院ボランティア会「ランパス」の方などによるミニコンサートを開いています。どうぞお立ち寄りください。

ボランティア会 ランパスによる
1月・2月 木曜ミニコンサート予定表

午後2時～約30分
2階ラウンジにて

1/9	お休み	
1/16	お休み	
1/23	フルート	川添久美子
1/30	ピアノとヴィオラ	マリエリカ
2/6	ピアノ	中村 美雪
2/13	声楽	福井早枝子
2/20	チェロ	古谷田祥子
2/27	声楽	高津 佳

※当日演奏者の都合により変更になる場合がございます。



編集後記

ここ数年、薬剤の開発が飛躍的に進み、かなり進行したがんの方でも長く治療出来ることが増えて来ました。治験の遂行を支援する部署として、この春に名称を変更した新規治療開発支援センター(旧:治験管理室)を紹介しました。また、種々の業務内容の変化にあわせてセンター内の組織を改編しましたので組織図を掲載しました。早いもので今年ももう秋になり、さらに年末が迫ってきました。巷ではインフルエンザの流行が始まったと言うニュースが聞こえてきています。これから次第に寒くなる折、皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

(病院長 大川 伸一)

編集・発行： 神奈川県立がんセンター 総務企画課
〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2
TEL 045-520-2222 (代表)
H P <http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

